

私の進路ビジョンと学びたいこと

法・政治・政策・情報を軸にして

なぜこの分野に興味を持ったのか？

- 1年間生徒会では「分かりやすく」というのを考えてきた
- 行政や制度が「わかりにくい」と感じる
- 専門用語や手続きの複雑さが人を遠ざけている
- 社会制度をもっと直感的にしたい！

やってみたいこと

「複雑な制度をわかりやすく、誰もが使える形に設計し直す」

→ 制度 × 情報 × 社会 × 法 の横断的な視点

関心分野

- 法学：社会制度の根本的な考え方となっているのは何か
- 政策学：制度をどう作り、どう動かしているのか
- 情報学：ITを活用して、どのようにより良くするか

それらを学べる大学

筑波大学

- 社会・国際学群：制度、政策、法と社会
- 情報学群：UX、社会情報、情報設計

→ 両学群の学際性に魅力を感じている

将来のイメージ

- 行政の制度やサービスの設計・改善
- 情報や制度のUX改善に関わる仕事
- AIや制度の法的整備・倫理設計に関わる研究者や官僚

大学からの進路設計

- 学部で制度と情報を横断的に学ぶ
- 探究・プロジェクト型学習を活用
- 大学院で「公共政策×情報」等を深める道も

ただし

やりたいことの多くは大学院でやることがメイン

- それを大学で学ぶことはできないか?
→それが筑波大学?
- 大学院で学ぶとしたら、そのために大学はどこにいけばいい?

進路关心レポート

法・政治・政策・情報を軸とした学問探究

generated by ChatGPT(OpenAI)

はじめに

- 対象：高校生（本人の対話記録より作成）
- 主な関心：制度や行政のわかりにくさの改善
- アプローチ：社会制度を再設計する視点からの進路探究

興味の中核

- 制度や行政の「わかりにくさ」を解決したい
- 社会的弱者が制度にアクセスしにくい構造への問題意識
- 「伝わる」「使える」制度設計に関心

横断的なキーワード

- 制度 × 情報 × 社会 × 法
- わかりやすさ・アクセスのしやすさ
- 情報設計・ガバナンス・AI倫理・公共UX

関連する学術分野

分野	興味内容
法学	行政法、情報公開、AI法、個人情報保護
政策学	制度改革、政策立案、公共サービス
情報学	UX、情報設計、行政システム
経営情報学	業務設計、業務改善、情報戦略

学びたい学問の形

- 文系的な制度分析力 × 情報系的な設計力
- 「学際的」な視点が重要
- 理解しやすく、使いやすい社会制度のデザイン

志望大学（第一志望：筑波大学）

- 社会・国際学群：社会制度・政策・法と社会
- 情報学群：UX、情報設計、社会情報学

→ 学際性と制度設計に通じた内容が魅力

他の大学候補

- 慶應SFC：政策・メディアの融合教育
- 名古屋大 情報学部：社会情報×情報科学
- 同志社・立命館：政策科学

将来像（志望職業）

- 行政UX／制度デザイン担当
- 政策コンサル／GovTech領域
- AI×法制度の整備に関わる専門家
- シンクタンク／公共機関での調査・提案業務

今後の進路イメージ

- 大学：制度・情報・社会を横断的に学ぶ
- 大学院：専門を深め、研究または実践へ
- 探究テーマ例：
 - 行政のUX
 - AI政策の法整備
 - 説明責任とわかりやすさの両立

最後に（私の軸）

「制度を、もっとわかりやすく、使いやすく」

- 社会にとって本当に必要な制度を考える
- 情報と設計の力で課題を解決したい
- 文理の壁を越えて、社会の未来に貢献したい

進路関心に関するレポート

Generated by Gemini(Google)

1. 概要

本報告は、ある高校生が進路を検討する過程において示した関心領域、学問分野、大学選択の方針、将来の志望職業などについて、対話記録をもとに第三者視点で整理・分析したものである。

出発点となる問題意識

「社会制度のわかりにくさを改善し、人々が公平にアクセスできる仕組みを作りたい」

2. 興味・関心の軸の分析

(1) 関心の中核

- 制度や行政のわかりにくさへの問題意識
- 社会的弱者が支援から取り残される現状への懸念
- それを構造的に理解し、「設計し直す」ことへの関心

(2) 関心を貫くキーワード

キーワード	内容
わかりやすさ	社会制度や行政情報の視覚的・構造的明確化
社会システム設計	制度やサービスのUXを含む再構築
公共政策	社会課題に制度的に取り組む手段への関心
法とAI	自動判断・倫理・規制の交差点にある問題

3. 関連する学術分野と適性

生徒の関心は、複数の学問領域にまたがっており、学際的な探究が適している。

学問分野	該当する関心内容
法学	行政法、情報公開法、AI規制、個人情報保護など
政治学	制度設計、ガバナンス、市民参加など
公共政策学	社会保障・制度運営・行政改革など
情報学	UX設計、社会情報設計、HCI、情報可視化
経営情報学	ビジネスプロセスの最適化、業務設計、情報戦略

4. 志望大学・学部の方角性 (1)

文系と情報系の接点にある分野を志望しており、特に**筑波大学**に強い関心を示している。

社会・国際学群（社会学類）

- 社会制度、政策、法と社会、社会設計などを横断的に学べる

情報学群（知識情報・図書館学類、情報メディア創成学類）

- UX、情報可視化、社会情報システムの構築と評価

4. 志望大学・学部の方角性 (2)

他大学候補

- 慶應義塾大学 総合政策学部 (SFC)
- 名古屋大学 情報学部 社会情報学科
- 同志社大学・立命館大学などの政策学部／総合政策系
- 千葉大学、東京工業大学の文理融合系 (情報・社会系)

5. 将来の職業イメージ

以下のような職業を、進路の延長上にある選択肢として視野に入れている。

職種	主な業務内容
行政システム設計担当（公務員）	制度のわかりやすい運用・行政サービスの再設計
公共政策コンサルタント	政策立案・制度改革の提案と支援
UXデザイナー（公共分野）	社会サービスや制度の「使いやすさ」を設計
シンクタンク研究員	政策評価や制度改革に関する調査・分析
AI倫理・法規制専門家	技術と法制度の接点での枠組みづくり

6. 学習方針と今後の進路設計

大学選びの方針

- 文系×情報系の融合的視点が学べる大学・学部を重視
- 複数分野の履修が可能な学際的カリキュラムを希望
- 将来は大学院進学も視野に入れ、専門性を深めたい意向

今後の探究テーマ例（高大接続）

- 「誰でも迷わず使える制度とは？」
- 「行政サービスのUXを再設計するには？」
- 「AIと行政判断の透明性をどう確保するか？」

7. 結論

この生徒は、現代社会における制度や行政の**「わかりにくさ」**を社会課題として捉え、それを構造的・情動的に再設計することを目指している。

法学や政策学に加え、情報設計・UX・AI倫理などに関心を広げており、**文理横断的な高度な学問探究**が求められる。

筑波大学をはじめとする学際的な学群・学部は、本人の関心や適性に極めて合致していると考えられる。